

都市高速道路を中心とする大規模都市施設による地区印象評価に関する事例分析

大阪市立大学大学院 学生員 ○鈴木 亜弥

大阪市立大学工学部 正会員 日野 泰雄

1. はじめに

都市環境に対する認識が高まるにつれて、周辺環境との調和に配慮した都市空間の形成が求められている。特に高架道路や商店街は、大規模都市施設として都市活動を支える一方、その圧倒的スケール感から、都市景観への影響が大きい。そこで本研究では、これらの大規模施設が地区の印象や都市景観に与える影響の程度を把握するとともに、これを考慮した都市空間構成の考え方を検討することとした。

2. 地区の印象を代表する施設とその評価

これまでの研究^{1),2),3)}では、高架道路が地区の代表的施設としてとりあげられることが多く、しかも多くの場合、それらが地区に悪い印象を与えていると指摘されている。逆に、良い印象を与えるものは、川や公園など、自然に関係していることがわかっていて、これらの意識調査データから、地区の代表物としてイメージされる施設は、①都市高速道路(高架道路)、②大規模商業施設(商店街)、③高度土地利用による集積施設(オフィスビル)、④都市施設に憩いを与える公的空間(公園・緑地・水空間:自然群)に大別され、それらが代表物として取りあげられた場合の地区の印象評価をみると図-1 のようであり、高架道路のみならず商店街の場合にも、その評価が良くない結果となっていることは興味深い。そこで、これらの代表的都市施設の組み合わせが、地区の印象に与える影響を分析し、その改善の方向性を検討する。

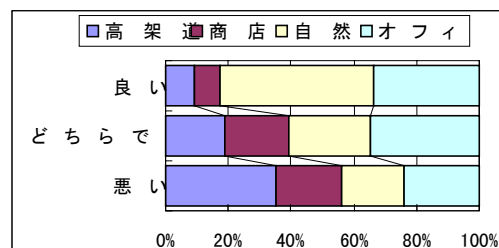


図-1 地域印象評価とその代表要素

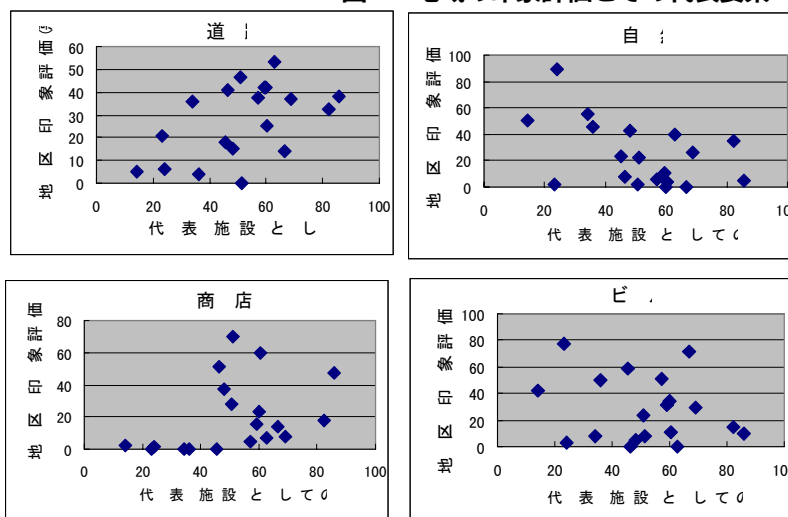


図-2 代表施設選択率と地区印象評価(悪い)

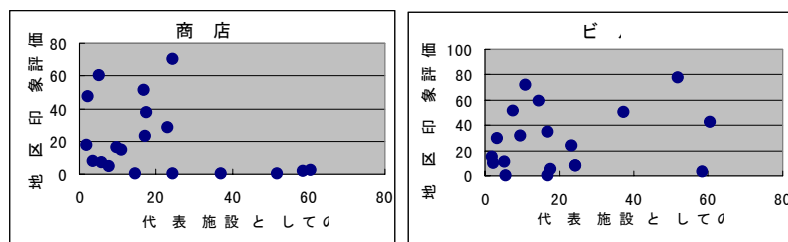


図-3 代表施設選択率と地区印象評価(良い)

3. 都市施設の地区代表性とそのイメージ

(1) 都市施設の代表性と地区の印象：代表施設選択割合と地区の印象を悪いと回答した割合の関係を示すと図-2 のようである。これらより次のことがわかる。

- ①高架道路を代表施設とする割合が増加するにつれて、地区の印象は悪くなる。
- ②高架道路が公園、河川等の自然系の中にある場合、地区の印象は改善され、その程度は自然を代表施設とする割合が増加するにつれて大きくなる。

③高速道路がビル群や商店街に近接する場合に特定の傾向は認められない。良い印象の割合をみると、ビル群を代表施設とする場合にやや高く、商店街の場合には低くなる傾向にある(図-3)。

(2) 代表的都市施設による地区のグループ化：都市部において、高架道路は一般に地区の印象を悪くする傾向がある。そこで、その傾向を詳しくみるために、他の施設(②～④)との組み合わせ毎に、その印象を整理することにした。まず、意識調査の選択肢よりタイトル代表施設を整理して地域をグループ化した(表-1)。次に、各地区を選択された施設割合に

キーワード：高架道路、意識調査、都市景観、地区印象、施設印象

連絡先：〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 TEL 06-6605-2731 FAX 06-6605-3077

表-1 地域のグループ分類

市 区 別	代表施設(構成要素)	
	道路	高架道路、平面道路
	ビル	高層ビル、住宅、オフィス
	自然	川、寺、神社、公園
	商店街	商店街

表-2 地区印象評価に対する施設の影響

施設 地区	商店街	ビル	自然	道路
商店街	0.95	1.05	0.68	1.25
ビル	1.32	0.82	0.70	1.50
自然	1.56	0.92	0.67	1.86
道路	0.97	0.70	1.17	1.13

応じてこれらのグループに振り分けた。但し、最も高い選択率とその他の選択率の差が10%未満の場合には各々のグループに重複して属するものとした。

(3) **地区印象に対する施設イメージの影響**：地区印象が悪い場合を例に、各グループの平均的評価に対する代表施設別評価の比を算出した(表-2)。

- ①道路はどのグループでも印象を悪くしている
- ②自然はどのグループでも悪い印象を改善している
- ③商店街、ビル群は、相互のグループで印象が悪くなっている。
- ④自然グループでは、商店、道路に対するインパクトが強い場合に、特に印象が悪くなっている。

これらのことから、地区の平均的印象に対して、各施設の地区内での位置付け(インパクト)が印象評価に影響を与えており、特に、土地利用が混在する場合にそれを悪化させていると考えられる。また、その傾向には、道路や商店街にみられるように、車と人の混雑が影響しているようである。

4. 地区の印象に影響を及ぼす施設要素

(1) **施設規模と地区の印象**：ここでは、代表施設の土地利用面積割合を指標として、施設の空間規模と地区印象との関係を見ると、次のことがわかる(図-4)。

- ①全体として、面積規模と代表施設選択率、印象評価との間には明確な関係は認められない。これは、面積で表されるような平均的規模より、施設固有の印象が大きく影響しているためと考えられる。
- ②商店街の場合には、規模と選択率、印象評価(悪い)との間に正の関係がみられる。

- ③ビルの規模が大きくなると選択率は高くなるが、悪い評価の割合はどちらかと言えば低くなる。これは、オフィスビル街としてのまとまりが良い評価につながっていること示唆しているようである。
- ④自然系でも規模に応じて、どちらかといえば選択率は高くなるが、悪い評価の割合とは関連性がみられない。これは、その施設そのものの印象評価が強く影響しているためと思われる。

(2) **施設に対する印象**：選択された代表施設グループ毎に、地区の印象を表現する代表的な形容詞を整理すると表-3 のようである。これより、いずれのサンプルも高架道路がある地区が前提となっているため、施設に関わらず「騒がしい」、「うるさい」といった良くない印象が上位を占めているが、自然系には「親しみ」、商店街では「にぎやか」のような親しみを表す印象も挙がっていることから、施設のイメージはそれが位置する地区のイメージに影響される反面、地区のイメージもまた代表的施設イメージに影響されると言える。

5.まとめと今後の課題

本稿では、高架道路を中心として、地区を代表する施設と地区イメージの評価の関係を分析した結果、道路以外の代表的施設のイメージが良い場合にはその代表性を損なわないように、逆に悪い場合には施設のイメージ改善に配慮することで、高架道路整備に対する悪い印象が改善される可能性のあることがわかった。今後、各種施設の代表性と地区イメージの関係をより詳細に把握するためには、高架道路を含まない地区での調査と分析が必要であると考えられる。

参考文献

- 1) 森永芳弘, 日野泰雄, 徳永法夫, 是澤元博：都市部における高架道路の汚れの評価に関する一考察, 平成 10 年度土木学会関西支部年次学術講演概要集, pp.69, 1998
- 2) 岡崎展也, 西村 昂, 日野泰雄, 徳永法夫：都市高速道路のイメージ評価における環境と景観意識の関連分析, 土木計画学研究・講演集 No.22(2), pp.607-610, 1999
- 3) 徳永法夫, 西村 昂, 日野泰雄, 是澤元博, 尾松豪紀：都市内道路構造物の印象と汚れ対策に関する一考察, 構造工学論文集 Vol.45A, pp.1193-1200, 1999

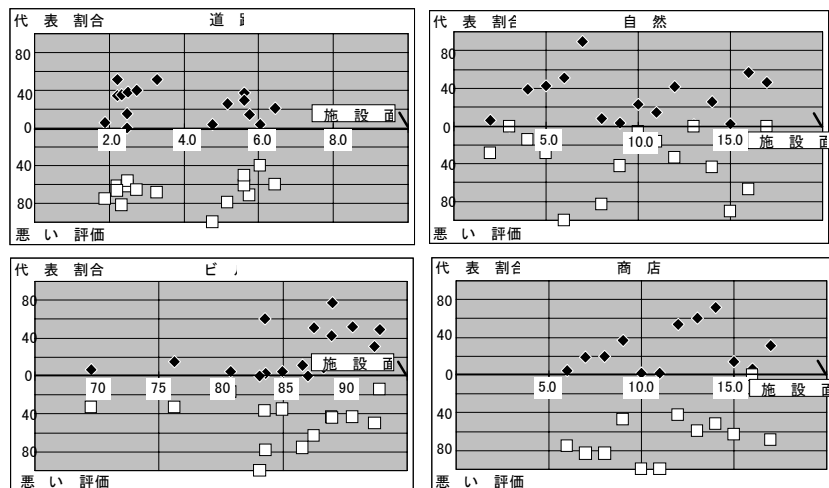


図-4 施設面積による選択率と悪い評価の関

表-3 施設に対するイメージ

	1位	2位	3位	4位	5位
道路	騒がしい	うるさい	人工的な	不健康な	汚い
ビル	人工的な	騒がしい	うるさい	不健康な	落ち着きのない
自然	騒がしい	うるさい	親しみのある	にぎやかな	雑然とした
商店街	騒がしい	うるさい	雑然とした	落ち着きのない	にぎやかな